

平成23年度 中条小学校校内研修全体計画

研究推進委員会

1 研究主題

しっかり考え、進んで学習する子どもを目指して（3年次）
～習得・活用によって、考える力を伸ばす～

2 主題設定の理由

（1）グランドデザイン

しっかり考え、進んで学習する子

基礎基本の定着

- ・習得と活用で考える力を伸ばす授業改善の推進
- ・スキルアップタイム等を活用した基礎基本の習得
- ・自学の充実と家庭学習の定着

自ら学び自ら考える子の育成

- ・地域素材を生かした協同的・探究的に学ぶ活動の推進

目標とする姿

- ・国語・算数のワークテストの到達度80%以上
- ・探究活動に取り組み、情報を活用して学ぶ子が80%以上
- ・家庭学習を学年の目安以上する子が80%以上

（2）子どもの学びの姿と課題

22年度は「しっかり考え、進んで学習する子ども」の育成を目指して、本年度から始まった新学習指導要領で求められている知識や技能の確実な「習得」と身に付けたことを用いて「活用する力」を伸ばすための指導を大切にしてきた。「習得」と「活用」が車の両輪のように互いに補い合って「考える力」「進んで学習する力」が育つと考えたためである。

- 低・中・高学年の担任で話し合っただけでそれぞれの発達段階に応じて「考える姿」を明確にし、「考えるおおなっ子」を作成した。これを活かして6年間を見通した指導を目指した。
- アンケートで、「学習に進んで取り組んだ」と答える子どもが90%を超え、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。
- 学級担任の見取りでも「意欲を持って進んで学習に取り組む姿がみられた」と評価する学級担任が多かった。
- 考える力を育てるために授業研究・協議会、授業改善で、「考えるおおなっ子」を活用した実践を進めることができた。
- 「考える姿（考えるおおなっ子）が身につけている子ども」については、身に付いていないと感じている学級担任の評価の方が多く、意欲的に学習する姿とは差が見られる。

3 研修の方向と取組

研究主題「しっかり考え、進んで学習する子ども～習得・活用によって子どもの考える力を伸ばす」を実現するための研修を行っていく。「習得」と「活用」が車の両輪のように互いに補い合って「考える力」「進んで学習する力」が育つと考える。

「考える力」を伸ばすために昨年度は「目標・基準とする姿（考えるおおなっ子）」を明確にした。しかし、その姿を子どもが達成できたとは言い切れない。

そこで今年度は、子どもが「考えるおおなっ子」の姿を達成するために、言語活動による「習得・活用」の手立てを中心に研修を進める。

考える力を育てるために、「言葉で表現し・言葉で理解を深める」言語活動を用いた習得・活用の学習を展開する。考えるおおなっ子「みつける」「つくる」「くらべる」「まとめる」それぞれの活動の中心に書く・話す、意見や考えをもち、仲間で話し合い共有するなどといった言語活動を取り入れていく中で、子どもの習得と活用を図り、考える力を伸ばしていく。

今年度は言語活動を「授業のねらい達成や、教科の中での思考力・判断力・表現力育成のための手立て」として、教科や単元のねらいに応じて「考えるおおなっ子の姿を達成させる（習得と活用）ための手立て」として意識的に取り入れる。

(1) 具体的な取組

① 基礎・基本の習得を目指したスキルアップタイムなどの学習活動の充実

・「スキルアップタイム」の活用と実践紹介

学習内容の定着を図る活動を朝学習の時間に週2回設定する。水曜日は国語的な内容、木曜日は算数的な内容を行うこととし、「言語活動」を意識して指導計画を立てて計画的に行う。3回分で1単位時間として扱う。(月曜日は学級裁量とする。) また、「学力向上診断問題」をこの時間に行い、子どもの実態を把握する。

さらに、スキルアップタイムの各学級の取り組みを紹介し、自学級の取り組みに生かせるような研修を行う。

② 確かな習得と活用で考える力を伸ばす授業改善の推進

・「子どもに付けたい力」を明確にする

子どもの実態や課題から、子どもに身に付けさせたい「考える力」（「考えるおおなっ子」を基準に）を明らかにし、実現のために言語活動を意識して具体的方策を考え、毎日の授業を行っていく。また、子どもの実態により近づくよう日々の見直しを図っていく。

・学力検査や学力向上診断問題結果分析と考察

4月実施のNRT学力検査や3～6年生では学力向上診断問題について分析し、具体的な改善の方策を明らかにして毎日の授業を行っていく。

・授業研究・研究協議会

「習得した基礎基本と既習事項を活用する場面」に視点をおいて授業研究を行い、子どもの確かな学力の向上と活用、考える力の育成を図る。研究協議会では、研修テーマに沿った協議題を設置し、授業改善に役立てていける協議を行う。

・言語環境の整備

言語活動を意識して子どもの考える力を伸ばして行くために、子どもを取り巻く言語活動を整備していく。教師自身が正しい言語で話したり黒板に丁寧な字を書いたりする、適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用するなど、言語に対する意識と関心をもって指導にあたる。

・「積み上げの記録」の作成

次年度以降に生かせるよう1年間の研修をまとめる。

③ 地域素材を生かし協同的・探究的に学ぶ活動の推進

各教科において、中条の自然や人、歴史や文化と豊かに関わる活動を展開し、問題解決や探究活

動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。

特に、総合「おおなタイム」においては、各教科で習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用し、探究の過程が連続する学習過程を進める。また生活科においては、地域・人・自然・仲間とのふれあいなどを中心とした体験的な活動を重視する。

④ 家庭学習の定着と自学の奨励・充実を図るための手立ての工夫

・家庭学習を定着させるための目安時間の設定

習熟や基礎学力の定着のための内容を中心に、家庭学習を低学年は30分間、3～6年生は（10分間×学年）となるよう平日は毎日行う。時間だけでなく中身のある家庭学習が習慣化できるよう手立てを工夫する。

・自学の奨励

自分で学習の内容を考える自主学習（自学）への取り組みを積極的に進める。発達段階に合わせて宿題と自主学習の軽重をつけたり、自学の内容の例示や進め方を紹介したりするなどして子どもの学ぶ意欲を高めていく。また、PTA総会や学校便り、学級便りなどで保護者にも呼びかけ、意識を高めていくようにする。

・実践紹介

家庭学習の習慣化のための取り組みを紹介し、自学級の取り組みに生かす。

4 研修の内容・進め方

（1）授業研究・研究協議会

・授業研究は、各学級担任が1回は行う。単元中に習得した基礎基本や既習事項を活用する場면을公開することとする。教科は問わないが、子どもの実態から学習活動を通して付けたい力を明確にするとともに、それらを身につけるための具体的な手立て（言語活動を意識して）をはっきりさせて授業公開を行う。授業公開は研究協議会当日かその数日前に実施する。

・指導案や協議題を全教職員に配布し、全教職員の参観のもと、授業公開を行う。授業公開に先立ち事前検討会を学年部（1～3年・ひまわり、4～6年）で1回以上行い、指導者として1～3年・ひまわり部に校長、4～6年部に教頭が入る。研修テーマに沿った協議題を設置し、授業改善に役立てていける協議を行う。授業記録や記録写真および協議会司会や記録などは、研推委員を中心に各学年部で行う。ただし、計画訪問などの授業については、全体で事前検討会・指導案説明会を設定する。

（2）全体研修・実践紹介

・授業研究に関すること、学力向上に関すること、実践紹介などについて、指導に当たる教員が協議したり、研修を深めたりする機会とする。

・全体研修会は、原則として月曜日（15：30～16：45）に行い、公開授業後の研究協議会は全体研修とする。

・「子どもに付けたい力」やNRT分析、スキルアップタイムの取り組みの紹介や実践報告を実施する。夏期休業を有効に利用する。

〈全体研修の内容〉

- 1 中条小学校の学習面における実態・課題と子どもに付けたい力・学力検査・学力向上診断問題の分析

(6月上旬)

- 2 「付きたい力」の1学期振り返りと改善策(夏期休業中)
- 3 基礎基本の習得・活用によって、考える力を伸ばす学習活動の取組計画と実践紹介
(夏期休業中)
- 4 スキルアップタイムの取組の紹介(夏期休業中)
- 5 家庭学習の習慣化の取組の報告(9月上旬)
(実践紹介の持ち方)
 - ① テーマについてレポートを作成し、説明する。
(レポートの形式項目については、その都度研推が提示する。)
 - ② 質問や学んだことを話す。
 - ③ 校長、教頭から指導を受ける。

5 研修のまとめ

研修のまとめとして「積み上げの記録」を作成する。掲載する内容は以下の通りとする。

- ① 授業公開した職員 指導案と実践についての考察
- ② 授業公開しなかった職員 随想(A4 1ページ)
- ③ 実践紹介に出した報告書
- ④ 研修計画および成果と課題
- ⑤ その他 研修で利用した文書